

『健診』と『検診』の違いってなあに？

川口市立医療センター

消化器内科総合健診センター

きくち ひろし
菊池 浩史



皆さんは定期的に『けんしん』を受けていますか？職場健診、学校健診、がん検診、歯科検診など、さまざまな『けんしん』がありますが、実は『健診』と『検診』は異なる意味を持っています。

『健診』とは健康診断、健康診査の略称であり、健康であるかどうか、病気の危険因子があるかどうかといった、健康状態を調べることを目的に行うものです。例えば、平成20年に始まった特定健康診査（いわゆるメタボ健診）、特定保健指導は、40～74歳を対象に生活習慣病のリスクを調べるものです。なお、職場健康診断は労働安全衛生法で、学校健康診断は学校保健法でそれぞれ実施が義務付けられています。

一方、『検診』とは特定の病気を早期に発見し、早期に治療することを目的に行うもので、対策型検診と任意型検診に分けられます。

対策型検診は行政が主体となり行う予防対策のことで、比較的安価で受けることができます。厚生労働省の指針では5つのがん（肺がん、乳がん、胃がん、子宮頸がん、大腸がん）検診が勧められており、特定の疾病に対する地域集団全体の死亡率減少を目的としています。

任意型検診は医療機関が独自に提供する検診のことで、よく聞く「人間ドック」も、このうちの一つです。費用は医療機関ごとに異なり、原則として全額自己負担となりますが、健康保険組合や自治体から補助金が出る場合があります。対策型検診と同様に死亡率の減少を目的としています。個人に対する、より詳細な検査として検査項目が多いことが特徴です。

さまざまな『けんしん』を受けることで、病気の早期発見・早期治療につなげ、これからも皆さんが笑顔で過ごしていけるよう、年に一度はご自身の体と向き合う時間をつくっていただければと思います。医療センター総合健診センターでお待ちしています。

3月は自殺対策強化月間です

就職や転職、転居など、生活環境が大きく変動し、自殺者数が増加する傾向にある3月を「自殺対策強化月間」と定め、国、県、市町村、関係機関・団体などが連携し、自殺予防のために取り組むこととしています。市では「大切な あなたの命は 宝物」をキャッチフレーズに横断幕を駅などに掲出し、普及啓発をしています。



●自殺者数の現状

令和4年中の市内の自殺者数は84人で、自殺死亡率は人口10万人あたり13.87です。全国の自殺死亡率は17.25、埼玉県は16.94です。

●ゲートキーパーを知っていますか？「ゲートキーパーは命の門番」です。

ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声を掛けてあげられる人のことです。特別な研修や資格は必要ありません。誰でもゲートキーパーになることができます。周りで悩んでいる人がいたら、やさしく声を掛けてあげてください。

- 気づき** … 眠れていない、口数が少なくなったなど家族や仲間の変化に気付く
- 声かけ** … 悩んでいる人への声掛けの仕方にも迷ったら…「どうしたの?」、「何か悩んでいるの?」などと声を掛ける
- 傾聴** … 本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける(まずは話せる環境づくりから)心配していることを伝え、真剣な態度で聞く
- つなぎ** … 早めに専門家に相談するよう促す
- 見守り** … 温かく寄り添いながら、じっくりと見守る

メンタルヘルスチェックシステム「こころの体温計」

パソコンやスマートフォン・携帯電話からいつでも簡単に心の健康状態をチェックできます。また相談窓口も案内しています。



☎疾病対策課 ☎048-423-6748 FAX048-423-8852

イベントスケジュール

2日(土)～3日(日) 3月

第63回川口市花の文化展
📍イオンモール川口前川

3日(日) 川口市
消防防災フェア2024
📍グリーンセンター

9日(土) 第66回川口市
明るい街づくり運動推進大会
📍フレンドシア

13日(土)～14日(日) 4月

第97回 春の安行花植木まつり
📍川口緑化センター

川口市 広報課 職員による
ちょっとくだけた!? 市政情報番組
85.6 MHz City Information
FM Kawaguchiで放送中
放送日:平日の10分間...10:00、13:50、17:50、20:00

LINE ID @kawaguchi_city
川口市 公式アカウント
※さらに川口情報メールと同じ内容の受信も可能

暮らしに役立つ ぜひご利用ください
さらに川口情報メール

川口が誇る伝統産業「安行の植木」。その発展・振興に貢献している植木職人の鈴木克典さんは「木のお医者さん」でもある。

祖父、父ともに植木職人で、熱心に植木と向き合う2人の背中を見て育った鈴木さんが植木職人を目指すのは自然な流れだった。

大学卒業後の約3年半、京都の造園業者の下で修行し、植木職人としての技術を磨いた。「当たり前」のことを当たり前にやること、手をかけることの大切さを学びました。

修行やその後の仕事で身に付けた腕が認められ、オランダで開催された平成14年の国際園芸博覧会「フロリアード」への出展では植栽設計と庭園製作責任者を務めることに。園が提示したイメージを庭園として実現するため植栽計画を立てるのだが、意見のすり合わせに四苦八苦。日々熟考

を重ねた。そして仲間と共に作り上げた日本庭園は見事入賞を果たした。「それまで交わることのなかったかたちと寝食を共に語り合えたことは、世界が広がるような貴重な体験でした」と語る。

鈴木さんが樹木医の存在を知ったのはそれから少し後のこと。樹木医は、枯れた部分や不要な部分などを剪定する「植木」とは違い、自然に近い形で健康な樹木を育てる「林業」の考えから生まれた資格だ。オランダで、伸び伸びと広い間隔で剪定もされずに植えられている街路樹の姿が目につく。鈴木さんが植木を育てることに決めた。仕事と並行しながら猛勉強し、平成16年に一発合格。難易度の高い試験を突破できたのは、家族の支えや先輩の適切なアドバイスもさることながら、樹木への熱い思いがあったから。現在は植木

職人として造園業の仕事をする傍ら、樹木医として、樹木の細やかな観察や触診などで健康度や危険度を診断し、必要な治療を行っている。

生きていく木で美を生み出す植木職人と、木を健康に生かすためにどうすべきかを診断し治療する樹木医、その2つの顔をもつ鈴木さん。「公園や庭など、人が生活する空間にある樹木は、樹木同士の間隔がどうしても近くなってしまうため、成長にはらつきが出たり、ぶつかり合うと剪定が必要になることもあります。樹木にとってもそれは本当の自然ではないのですが、その中でもできる限りストレスを感じさせず健康な樹木を育てていきたいです」と語る。その信念は、人と自然をつなぐ懸け橋となる。(念)



人と自然の懸け橋となる
植木職人・樹木医 鈴木 克典さん

